

第6学年国語科学習指導案

児童 6年2組 男20名 女9名 計29名  
指導者 三浦智子

自分の考えを広げたり深めたりするために対話を生かす指導の在り方

1 単元名 学習したことを生かして

(学習材名「海の命」(光村6年下))

2 単元について

(1) 児童の実態

児童は、これまでに、「カレーライス」で登場人物の心情の変化を、人物の行動に着目しながら読み取ることが学習してきた。また、「やまなし」で登場人物の心情や場面についての描写など、優れた叙述を味わいながら読むこと、作品に込められた作者の思いを想像しながら読むことを学習してきた。これらの学習を通して、会話や行動から、登場人物の心情を読み取ったり、場面の様子を、叙述をもとに想像したりする力がついてきている。しかし、会話や行動、情景描写に着目することはできても、叙述からその表現の効果を考えたり、自分の考えを互いに交流し合っ読みを深めたりすることは、まだ十分とは言えない児童が多い。

「読むこと」の学習において、読み取りを深めるために対話を生かすことは、「やまなし」で行っている。その際、課題に対する自分の考えを話すこと、相手の考えを自分と比べて聞くことは、意欲的に行うことができた。しかし、叙述をもとに互いの考えを聞き合い、そこから新たな考えを生み出したり、自分たちの読み取りを確かなものにしたりはまだ十分とは言えなかった。

これらのことから、「読むこと」の中に対話を位置づけ、叙述に即した各自の読みを聞き合うことによって、どの子も主体的に関わらせるとともに、情景や登場人物の生き方・考え方についての自分の考えを深めていけるようにしたい。

(2) 主たる指導事項と学習材

本単元は、児童がこれまでの学習経験を生かして読み、その優れた叙述から感じたことや考えたことをもとに、自己の生き方について考えることをねらいとしたまとめの単元である。

本単元の主たる指導事項は、「登場人物の心情や場面についての描写など、優れた叙述を味わいながら読み、自分の考えや感想をもつこと」である。この力を培うために「情景描写から心情を読み取ること」「自分の考えを広げたり深めたりするために、関連した図書資料を選んで読むこと」の力を育てていく必要がある。本単元では、「情景描写を手がかりに登場人物の生き方や考え方を想像し、作品の世界を味わうこと」が指導の中心である。

このような力を育てるために、学習材「海の命」を用いる。「海の命」は、主人公太一が、海と、海に生きた父や与吉じいさに関わる中で成長していく姿を描いた物語である。海のめぐみに感謝しながらもクエを捕ろうとして死んでしまった父、千びきに一びきとればいいという教えを遺し海に帰っていった与吉じいさ、父を殺したクエと出会ったときそのクエを殺さなかった太一、それぞれの生き方や考え方から「自然と人間の共生」「命の意味」を考えることができる。

本教材を通して、児童は、登場人物の言葉や行動・情景描写から心情を読み取ることができるであろう。また、登場人物の考え方や生き方を通し、自然との関わり方や自らの生き方について考えることができるであろう。

(3) 指導に当たって

指導に当たっては、次のように進めたい。

単元のみとおす段階では、題名に着目し、「海の命」について考えていくことを確認する。また、立松和平の作品には題名に「命」がつく作品が数多くあることを知らせ、「命」について考えていくために他作品も興味をもって読ませたい。読み進めていく際には、見通しをもたせるために、初発の感想を大事にし、そこから出されたものから課題設定をしたい。

ふかめる段階では、主人公太一の言葉や行動から、太一が成長していく様子を読み取らせる。また、自然との関わり方について考えさせるために、太一に関わった人々の自然に対する考え方を読み取らせたい。クエと対面する場面では、太一の取った行動を考えることで、「命」や自らの生き方について考えさせたい。

まとめる段階では、これまでに読んだ立松和平の作品を通して感じたことや考えたことを交流する。また、「海の命」で学習したことと重ね合わせて、「命」について考えたことを作者の伝えなかったこととしてまとめさせたい。

### 3 単元の目標

#### (1) 国語への関心・意欲・態度

・「命」について書かれた作品を進んで読もうとしている。

#### (2) 読むこと

・作品の情景を、叙述に即して想像し味わいながら読むとともに、「命」について自分の考えをもつことができる。

#### (3) 言語についての知識・理解・技能

・文や文章の構成について理解することができる。

### 4 単元の評価規準

ア 国語への関心・意欲・態度	イ 読む能力	ウ 言語についての知識・理解・技能
①心に残る情景や場面を進んで読もうとしている。 ②立松和平の作品に興味をもち、進んで読もうとしている。	①叙述をもとに、登場人物の生き方や考え方を読み取っている。 ②登場人物の生き方や考え方や作者の伝えたいことについて、自分の考えをもっている。	①文や文章の構成を理解している。

### 5 学習指導計画（10時間扱い）

#### 【関連する前の単元】

「やまなし」

○作品の情景を叙述に即して想像しながら読む。

○作品にこめた作者の思いを考える。

#### 【関連する対話の指導】

○立場や根拠を明らかにして話したり聞き返したりする。

段階	学習課題	学習活動と時間	評価規準（方法）
みとおす	○「海の命」を読んで、学習計画を立てよう。	・学習の見通しをもち、全文を読んで初発の感想を書く。(1) ・文章構成を確かめながら、初発の感想を話し合い、それをもとに学習計画を立てる。(1)	アー①心に残る言葉や文章について、感想を書いたり発表したりしている。(ノート、発言)
ふかめる	○お父や与吉じいさの考え方を読み取ったり、太一の気持ちを想像したりして、「海の命」について考えよう。	・「海のめぐみ」という父の考えと、太一の父に対する思いを読み取る。(1) ・「千びきに一びき」という与吉じいさの考えと、与吉じいさを師にした太一の思いを読み取る。(1) ・与吉じいさの死を受け止めた太一の成長を読み取る。(1) ・母と太一の海に対する考え方を比較して、太一が海に潜り続ける理由を読み取る。(1) ・クエを殺さなかった太一の心情を読み取り、太一の考え方について自分の考えをもつ。(2・・・本時2/2) ・太一のその後の生き方から、太一の変容とクエのことを話さなかった理由を読み取る。(1)	イー①叙述をもとに、登場人物の生き方や考え方を読み取っている。(ノート、発言) イー②登場人物の生き方や考え方について自分の考えをもっている。(ノート、発言) ウー①文や文章の構成を理解している。(ノート、発言)
まとめる	○「命」について考えたことを聞き合おう。	・同作者の題名に「いのち」がつく作品を読み、「命」について考えたことを聞き合う。(1)	アー②立松和平の作品を進んで読んでいる。 イー②作者の伝えたいことについて、自分の考えをもっている。

#### 【生かす教材】「今、君たちに伝えたいこと」

○叙述や言葉を根拠に、小澤征爾氏が伝えたいことを読み取り、それについて自分の考えをまとめる。

## 6 本時の指導

### (1) ねらい

クエを殺さなかった太一の気持ちを読み取り，太一の海の命に対する考え方について自分の考えをもつことができる。

### (2) 展開

段階	学習活動 (○主発問)	時間 (分)	◇ 学習内容	教師の関わり ☆評価 (方法)
みとおす	1 前時の学習を想起する。 2 本時の学習課題を確認する。 太一がクエを殺さなかった理由を考えよう。	4	◇クエと出会って変容していく太一の様子を想起すること。	・クエと出会ってから，もりの刃先をどけるまでの太一の様子を想起させる。
ふかめ	3 太一がクエを殺さなかった理由を聞き合う。 (対話)	10	◇叙述をもとに，太一がクエを殺さなかった理由を想像して聞き合うこと。 ・クエは動こうとはしない。 ・瀬の主は，全く動こうとはせずに太一を見ていた。 ・「おとう，ここにおられたのですか。また会いにきますから。」 ・大魚はこの海の命だと思えた。	・海の命に対する考え方に，太一の変容が表れていることをおさえる。 ☆太一の考え方を読み取り，自分の考えをもつことができたか。 (ノート) [努力を要する児童への手立て] ・板書をもとに，太一の海の命に対する考え方を振り返らせる。
る	4 対話したことを全体で学び合う。 ○クエと出会い，太一の心の中にどんな思いが生まれたのでしょうか。	18	◇クエと出会って変容した太一の気持ちを学び合うこと。 ・みんな，海のめぐみに生かされている。 ・クエを殺すことは，千びきに一びきとる 与吉じいさの教えと違う。 ・クエを殺さないことが，海の命を守ることである。	
	5 太一の考え方について自分の考えをもつ。	8	◇クエと対面して変容した太一の，海の命に対する考え方について，自分の考えをもつこと。	
まとめ	6 学習のまとめをし，次時の学習について見通しをもつ。	5		・太一がクエのことを生涯話さなかった理由を考えることに意欲を持たせる。